

研究集会 史料・考古・地質データ等に基づく地震・火山現象の解明

2014年9月6日(土)

東京大学地震研究所 セミナー室 (1号館2階)

- 午前の部 10:00～10:05 開会・主旨説明 加藤尚之 (東京大学地震研究所)
10:05～10:15 宍倉正展 (産業技術総合研究所)
津波浸水履歴情報の整備/海溝型巨大地震の履歴とメカニズム解明
10:15～10:25 吉岡敏和 (産業技術総合研究所)
活断層データベースの整備
10:25～10:35 近藤久雄 (産業技術総合研究所)
地震時変位量に基づく連動型古地震像復元手法の研究
10:35～10:45 谷岡勇市郎 (北海道大学)
津波堆積物調査に基づく北海道沖低頻度巨大地震の研究
10:45～10:55 津久井雅志 (千葉大学)
史料を用いた噴火履歴および推移の高精度化と低頻度火山現象の理解への活用
10:55～11:05 小山真人 (静岡大学)
富士山の史料火山学研究の現状と既存の噴火シナリオ
11:05～11:15 伊藤順一 (産業技術総合研究所)
産総研における火山地質情報整備の概要
11:15～11:25 加納靖之 (京都大学防災研究所)
史料の収集・翻刻・解析による過去の大地震および自然災害の調査
11:25～11:45 矢田俊文 (新潟大学災害・復興科学研究所)
家屋倒壊率・1軒当たり平均死亡者数による震源域の解明
-日本海沿岸の歴史地震を中心に-
- 昼休み 11:45～13:00
- 午後の部 13:00～13:30 佐竹健治 (東京大学地震研究所)
地震・火山災害の関連史資料に基づく低頻度大規模災害の調査
13:30～14:00 小林哲夫 (鹿児島大学)
噴火現象を再現するうえでの史料・考古学データの役割
～桜島, 開聞岳, 鬼界カルデラ・アカホヤ噴火～
14:00～14:30 保立道久 (東京大学名誉教授)
南海トラフ地震史料の周辺と地震神話
14:30～15:00 田中広明 (埼玉県埋蔵文化財調査事業団)
弘仁地震と地域社会の変化
- 休憩 15:30～15:50
15:50～16:00 山中佳子 (名古屋大学)
古文書解読による南海トラフ巨大歴史地震像の解明
16:00～16:15 宮瀧交二 (大東文化大学)
日本における災害情報継承方法の変遷について

16:15～16:30 西山昭仁（東京大学地震研究所）

歴史地震における新たな被害評価方法と震度分布図の提案

16:30～17:30 質疑・意見交換